

2021 年  
万引防止システムの市場規模  
に関する調査

報 告 書

複製を禁ず

2022 年 6 月

工業会 日本万引防止システム協会  
シゴトラボ合同会社

※本調査は（一社）日本自動認識システム協会のご協力をいただいております。

# 2021年 万引防止システム市場規模調査

## — 調査報告書説明資料 —

2022年6月2日

本調査報告のすべての内容（記述・グラフ等）の無断転載・無断使用はご遠慮ください。

## はじめに

本調査は、万引防止システムの市場規模を把握し、今後の万引防止システムの普及促進のための基礎資料とすることを目的としています。

今回の調査では、当工業会の会員企業（正会員・賛助会員）44社、及び万引防止システムを製造・販売している非会員企業（正会員・賛助会員以外）50社、あわせて94社に対して、アンケート調査を実施しました。

そのうち、39社（会員企業31社、非会員企業8社、回収率：41.5%）からの回答を得て、報告書を作成しております。

本調査は、2019年にも同調査を実施しており、データを比較しております。

尚、市場規模調査の報告書は会員企業様に限定して送付させて頂いております。

本日は、報告書の要点のみを抽出し、ご説明させて頂きます。

※謝辞 本調査は（一社）日本自動認識システム協会のご協力をいただいております。  
ありがとうございました。

## 【EAS機器等の設置台数】

\* 報告書 5P

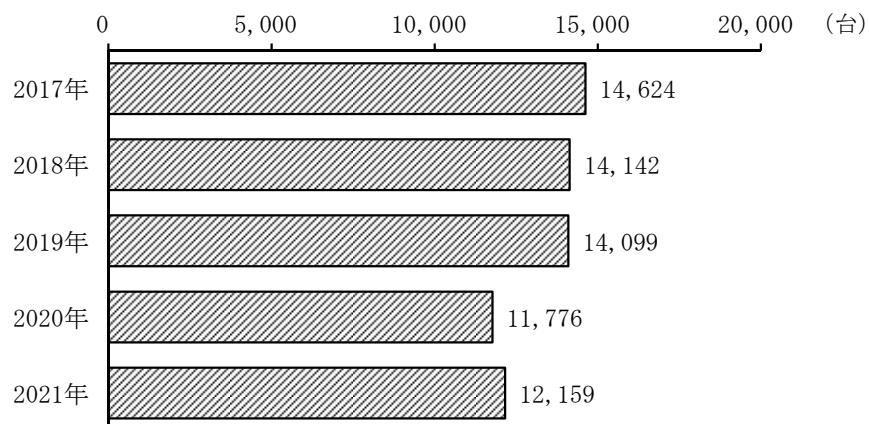
2021年のEAS機器の設置台数は、**12,159台**でした。

\*天井式、マット式、ゲート式ともにゲート（アンテナ）1機につき1台とカウントしています。  
2本立=2台 3本立=3台

2020年に大きく減少となりましたが、2021年は若干増加しています。

2013年以前の過去のデータをみると、2008年まで市場は右肩上がりに拡大し2006年～2008年までは1万8千台前後を維持していました。2009年から大きく減少し、ここまで1万2千台～1万4千台の間で推移しています。

図表1 EAS機器等の設置台数



<設置台数及び伸び率>

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
設置台数 (台)	14,624	14,142	14,099	11,776	12,159
伸び率※ (%)	-	▲3.3	▲0.3	▲16.5	3.3

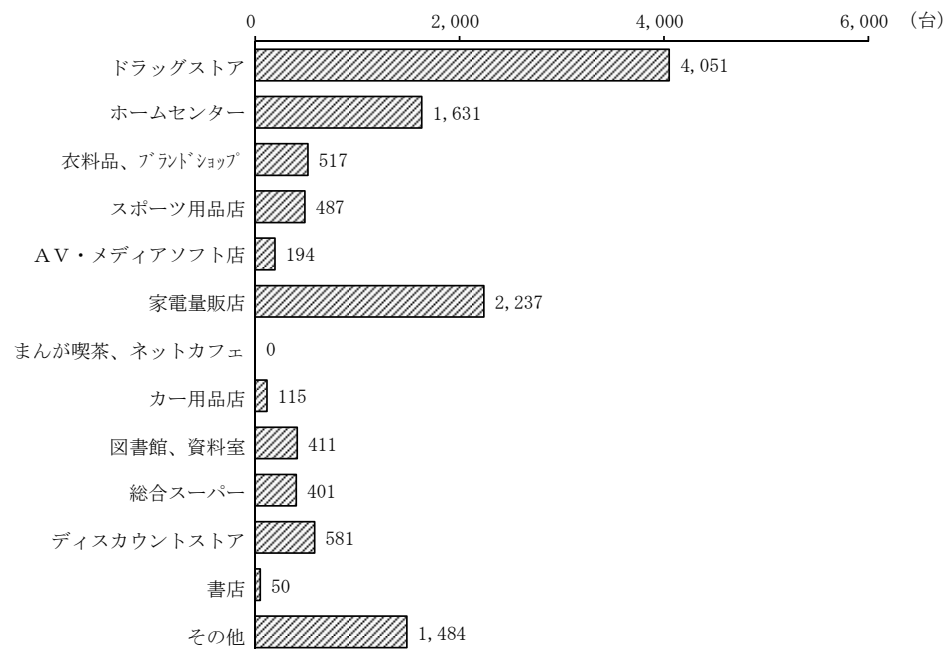
## 【業種別設置台数】

\* 報告書 7P

業種別に設置状況を見ると、「ドラッグストア」が最も多く、以下「家電量販」、「ホームセンター」、「その他」、「ディスカウントストア」と続きます。

- ・「ドラッグストア」は2020年に2810台に減少したものの、**2021年には4051台に増加**。「家電量販店」も、2020年に1814台まで減少したが、**2021年に2237台と過去5年で最多**となった。
- ・「衣料品、ブランドショップ」は2020年に674台と大きく落ち込み、**2021年も517台と減少傾向が続いている**。「総合スーパー」「ディスカウントストア」は、2018年、2019年と増加が続いたが**2020年より減少している**。
- ・「ホームセンター」は2019年まで減少傾向にあったが、**2020年以降増加傾向にある**。
- ・「図書館、資料室」は過去5年400台前半から後半を維持している。
- ・「スポーツ用品店」は2020年に現象したが**2021は年は若干増加となった**。

図表2 2021 年のEAS機器等の設置台数（店舗別）



注:「その他」は、携帯ショップ、モバイル、スーパーマーケット、産業廃棄物業施設、宝飾店、くつ、フィッシング、百貨店、専門店、スクール、酒店など。

## 【動作方式別 設置台数】

\* 報告書 13P

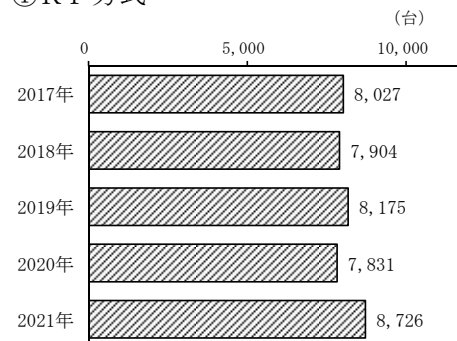
EASの方式別シェアをみると、RF方式がこれまでと変わらず最も大きく、次いでAM式、RFID、自鳴式、EM式となっています。

### ＜2017年からの推移＞

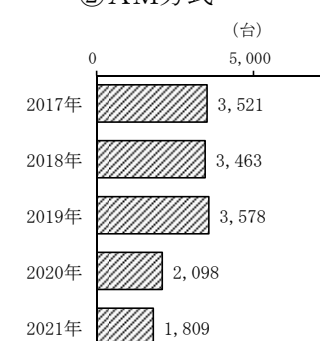
- ・「RF方式」は、2020年まで8000台前後で増減を繰り返し、**2021年に8726台まで大きく増加。**
- ・「AM方式」は、2020年に大きく減少し**2021年も減少となっている。**
- ・「自鳴方式」は2020年に大きく台数を減らし**2021年は若干増加に転じた。**
- ・「RFID」は2017年以降1000台以上をキープしてきたが、**2021年に896台に減少。**

図表7 EAS機器等の設置台数（動作方式別）

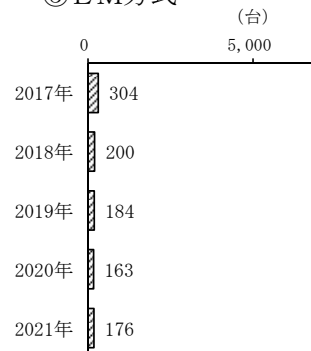
①RF方式



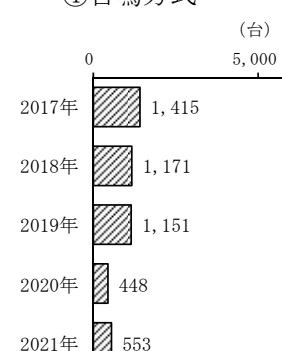
②AM方式



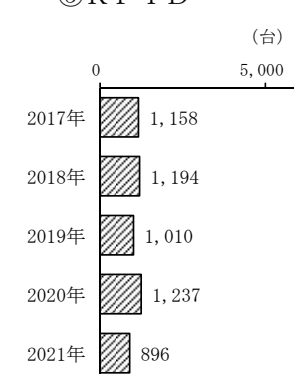
③EM方式



④自鳴方式



⑤RFID



## 【タグの出荷数量】

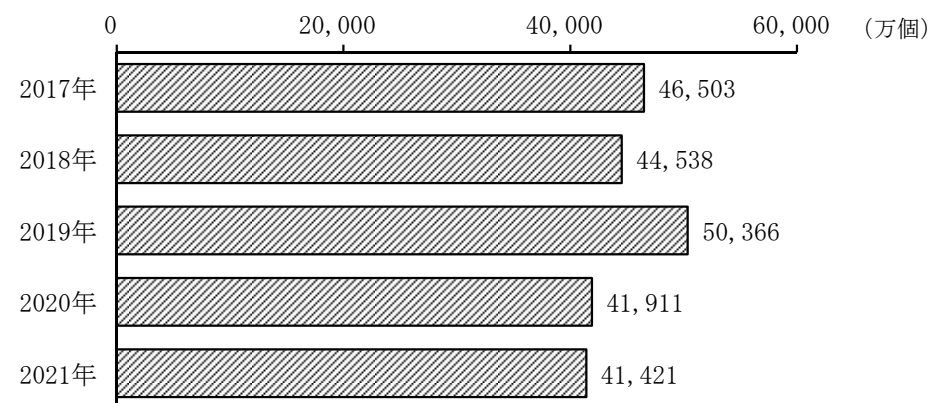
\* 報告書 15P

2021年のタグ出荷総数は、**4億1421万個**となりました。

### <2017年からの推移>

- ・ 出荷数量は2019年に5億366万個であったが、2020年は4億1,911万個と大きく減少し、2021年は4億1,421万個で微減となった。
- ・ 伸び率でみると、2018年は4.2%の減少、2019年は13.1%の増加、2020年は16.8%の減少、2021年は1.2%の減少であった。

図表9 EASタグ・RFIDタグの出荷数量



<EASタグ・RFIDタグの出荷数量及び伸び率>

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
出荷数量 (万個)	46,503	44,538	50,366	41,911	41,421
伸び率※ (%)	-	▲4.2	13.1	▲16.8	▲1.2

※伸び率 = (当年出荷数量 ÷ 前年出荷数量 - 1) × 100

## 【EAS機器等の出荷金額】

\* 報告書 18、19P

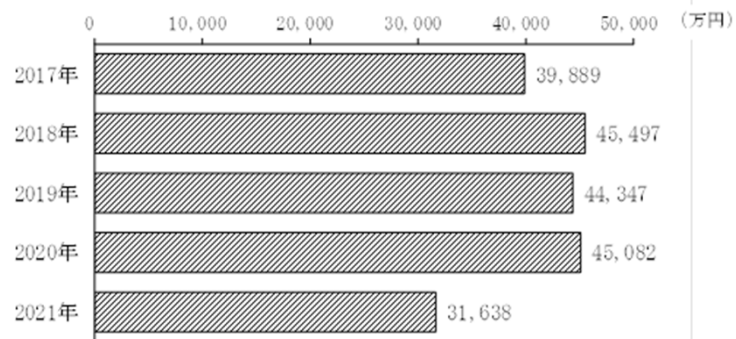
2021年のEAS機器等の出荷金額は、**77億5475万円**となりました。

出荷金額は2017年から2019年まで毎年増加していましたが、2020年に大きく落ち込みました。

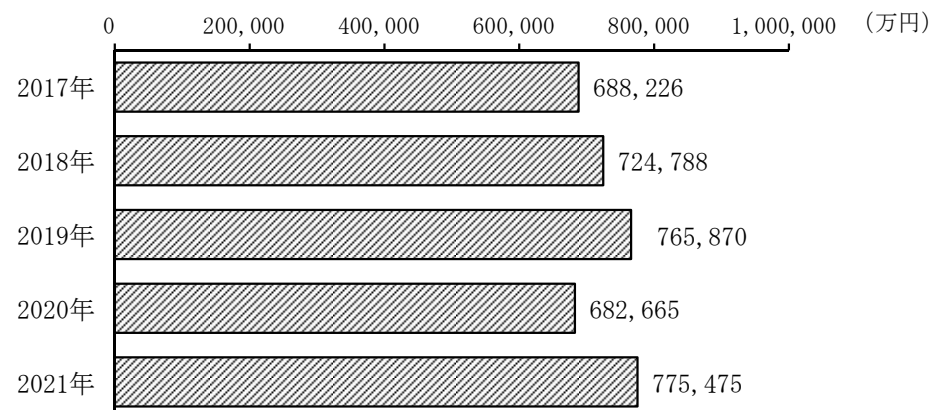
しかし、**2021年には再び増加し過去5年で最高額となりました。**

保守金額は、2018年から2020年まで4億5千万台をキープしていましたが**2021年に大きく落ち込みました。**

図表 1 3 保守費の金額



図表 1 2 E A S 機器等の出荷金額



< E A S 機器等の出荷金額及び伸び率 >

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
出荷金額 (万円)	688,226	724,788	765,870	682,665	775,475
伸び率※ (%)	-	5.3	5.7	▲10.9	13.6

※伸び率＝（当年出荷金額÷前年出荷金額－1）×100

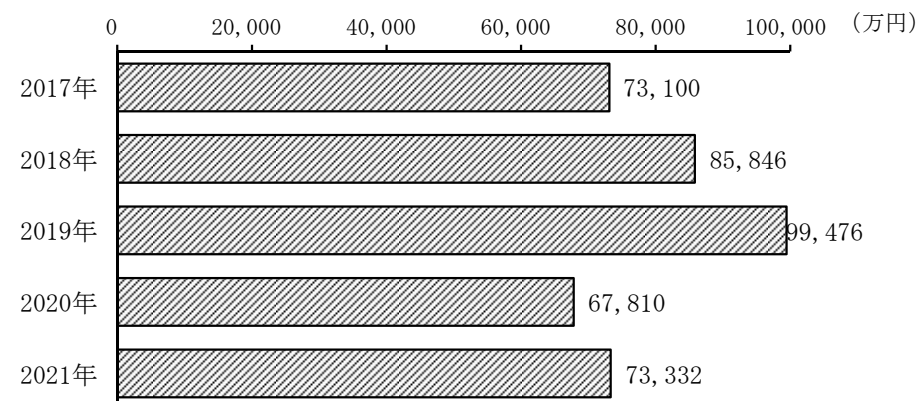
# 【ケーブル式盗難防止機器の出荷金額】

\* 報告書 20P

**2021年のケーブル式盗難防止機器の出荷金額は7億3332万円となりました。**

出荷金額は、2019年までは順調に増加していたものの、2020年は31.8%の大幅な減少となった。2021年は8.1%の増加であった。

図表 1 4 ケーブル式盗難防止機器の出荷金額



< ケーブル式盗難防止機器の出荷金額及び伸び率 >

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
出荷金額 (万円)	73,100	85,846	99,476	67,810	73,332
伸び率※ (%)	-	17.4	15.9	▲31.8	8.1

※伸び率 = (当年出荷金額 ÷ 前年出荷金額 - 1) × 100

## 【顔認証システムの設置店舗数と売上】

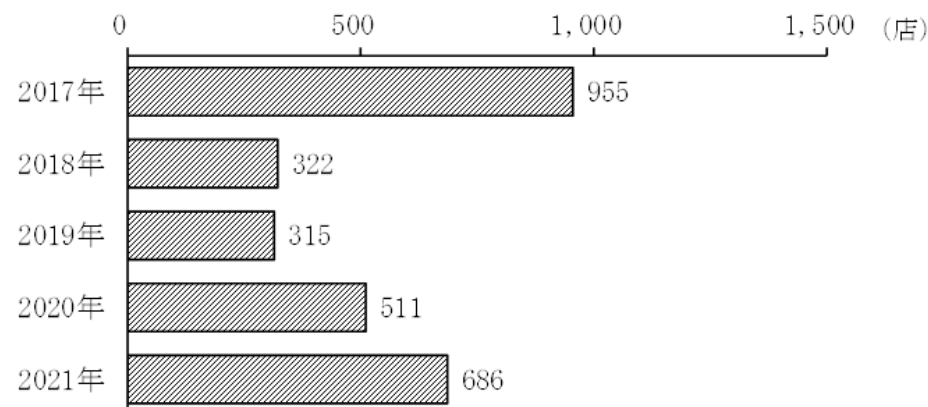
\* 報告書 21P

2021年の顔認証システムの設置店舗数は686店で、売上（出荷金額）は**9億7,176万円**でした。

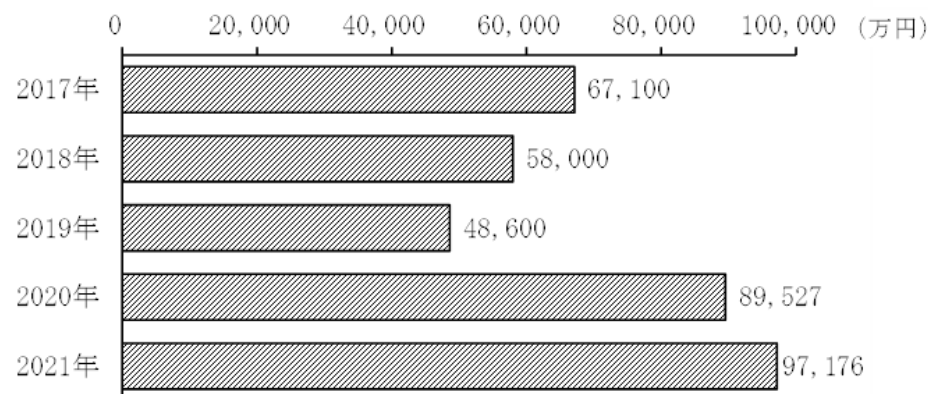
<2017年からの推移>

- ・設置店舗数は2017年は955店だが、以降、300店前後と減少しほぼ横いとなったが、2020年以降前年30%以上の伸び率で増加している。
- ・売上（出荷金額）は2017年～2019年にかけて減少傾向であったが、2020年から8億9527万円に増加、2021年も8%近く増加となります。

図表 1 5 顔認証システムの設置店舗数



図表 1 6 顔認証システムの売上（出荷金額）



## 【顔認証システムの設置店舗数と売上】

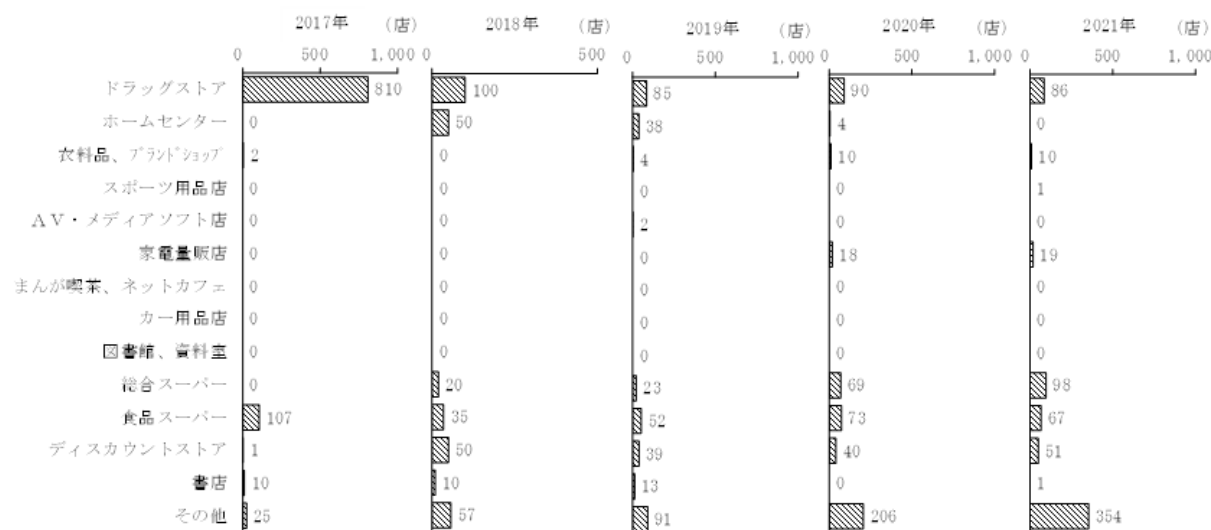
\* 報告書 23P

2021年の設置店舗数をみると、最も多いのは「**その他**」(**354店**)、以下、「**総合スーパー**」(**98店**)、「**ドラッグストア**」(**86店**)、「**食品スーパー**」(**67店**)、「**ディスカウントストア**」(**51店**)、**家電量販店**(**19店**)、**衣料品、ブランドショップ**(**10店**)、**スポーツ用品店**(**1店**)、**書店**(**1店**)などと続いている。

### <2017年からの推移>

- ・「ドラッグストア」は2017年の810店、以降100店舗以下で推移。
- ・「その他」は2019年に73店であったが、2020年206店、今回354店と増加。感染症対策の非接触や混雑回避のニーズの増加が想定される。

図表 18 顔認証システムの設置店舗数（店舗別）



## 【AIシステムの設置店舗数(店舗別)】

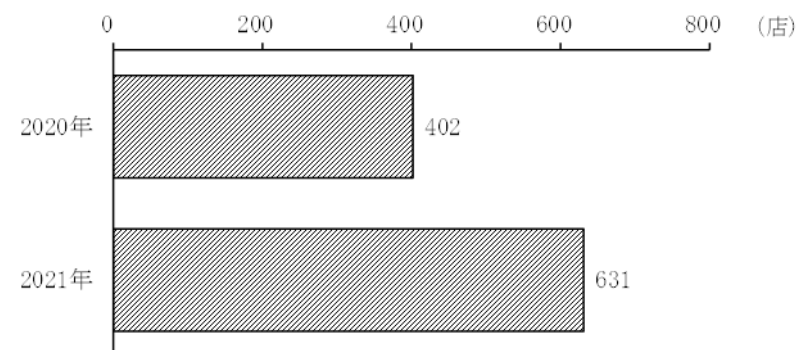
\* 報告書 24P

2021年のAIシステムの設置店舗数は631店で、売上（出荷金額）は**4億4,201万円**でした。

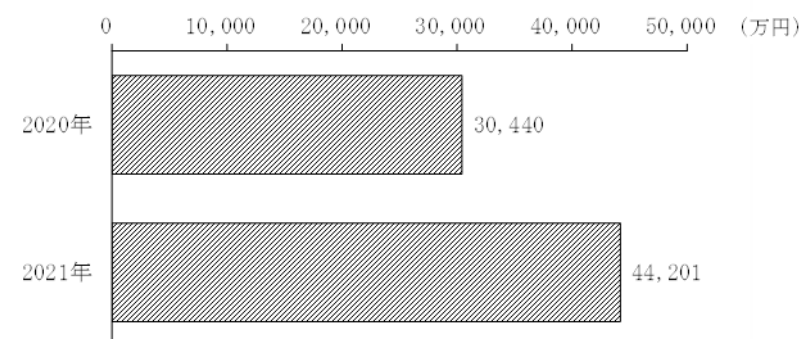
＜2020年からの推移＞

- ・ AIシステムの設置店舗数は、2020年が402店、2021年が631店で、前年と比べて229店の増加であった。
- ・ AIシステムの売上（出荷金額）は、2020年が3億440万円、2021年が4億4,201万円で、前年と比べて1億3,761万円の増加であった。

図表 19 AI システムの設置店舗数



図表 20 AI システムの売上（出荷金額）



# 【法令順守や安全管理措置関連する取り組みについて】

\* 報告書 29P

システムに関する提案、販売・納品に際して個人情報保護の観点で取り組まれていること、安全管理措置について、自由に記述して頂く。

計16件のご回答を頂く

- ・個人情報の取扱いに関するもの 7件
- ・提案時のチェックに関するもの 4件
- ・データセキュリティに関するもの 3件
- ・その他 2件

NO	システムに関する提案、個人情報保護の取り組み、安全管理措置の内容
1	当社はエッジAIの社会実装を目指しており、クラウドに個人情報は残さない。 (特許第6644231号取得)
2	カメラを販売する際にシステムインテグレータ、エンドユーザーに付し、個人情報保護法に関する情報提供を行っている。
3	①個人情報が分からないよう、顔にモザイクなどをかける画像処理を行っている。 ②データの暗号化 ③ハードの持ち出し不可
4	当社、ISMS規定に準ずる。
5	顔認証システムの販売ならびに運用を行う会社として、独自の「個人情報保護マネジメントシステム」を構築し、エンドユーザーに提示し、運用上の取り決めを行い契約している。このPMSについては、内部監査ならびにユーザーからの監査により見直し、強化を図ると共に、保護法の改定に合わせた更新を行う。
6	代理店、販売店への指導を行っている。
7	1. 個人情報の取り扱い業務は入退館（室）管理を実施している。物理的に保護された室内で実施している。 2. 電子化された個人情報を外部記憶媒体に保管して、運搬・郵送等する場合や電子メールにて添付してファイル送信する場合、データの暗号化を行っている。
8	1. ユーザー側の体制（窓口） 2. 個人情報の共有範囲 3. JEAS協会の資料の共有等
9	・提案時から用途について確認 ・総務省ガイドラインの案内 ・JEASパンフレットの案内
10	JEASより受領している資料を顧客に提出している。
11	JEAS、認定個人情報保護団体の対象事業者としてセミナーなどを受講。
12	記録装置保管は、鍵付きのラックを必須とする。
13	HDDの社内取り扱い（修理品など）
14	・ソフトウェア上での暗号化 ・顔画像を保存しないシステム
15	不審な動作による「自動声かけ」のため、顔認証しておらず、個人情報に係るデータの取り扱いはない。
16	ID-POSとの連携では個人情報が多分に含まれるため、当社で扱うデータ上は属性などにとどめ、個人を特定できる情報は極力扱わないようにしている。PCや端末などのローカルデータを残すことはリスクとなるため、暗号化したうえでクラウドサーバ上で管理を推奨している。